臨床栄養部

部長　宮島　功

人の動き

2022 年は、3 名の退職者がおりました。また、6 月、10 月、11 月にそれぞれ 1 名ずつが産休・育休を取得しました。その一方で、2022 年 4 月には 3 名の職員と 2 名の長期研修生を迎えました。2 名の長期研修生は、8 月に職員となりました。また、10 月、11 月にはそれぞれ 1 名ずつ育休復帰のスタッフがおりました。2022 年 12 月の時点で、22 名の管理栄養士と 1 名のクラークが在籍しています。

業務・取り組み

・病棟業務

管理栄養士は、全病棟に常駐し入院したすべての患者に適正な栄養サポートを行なっています。また、医師・看護師より栄養サポートという周辺業務を取り除くことで、医師・看護師はコア業務に絞り混むことが可能となります。

・栄養食事指導（図１、図２）

当院では、入院患者および外来患者に対して栄養食事指導を行なっています。2022 年の入院栄養食事指導件数は 2,087 件であり、前年 2021 年の 3,521 件に比べ減少しました。その要因の一つとして、2022 年度より早期栄養介入管理加算の対象病棟が拡大となり、算定患者数も増加しました。早期栄養介入管理加算を算定した場合、入院栄養食事指導料が算定できないため、対象患者が減少したことが、栄養指導件数の減少の要因と考えられます。

一方、外来栄養食事件数は 1,599 件であり、前年 2021 年の 1,576 件に比べ増加しました。従来の内科患者および心臓血管外科術後の退院フォローの指導に加え、糖尿病透析予防指導の増加、消化器外科術後指導、化学療法施行患者への指導など、診療科を拡大したことが要因と考えられます。

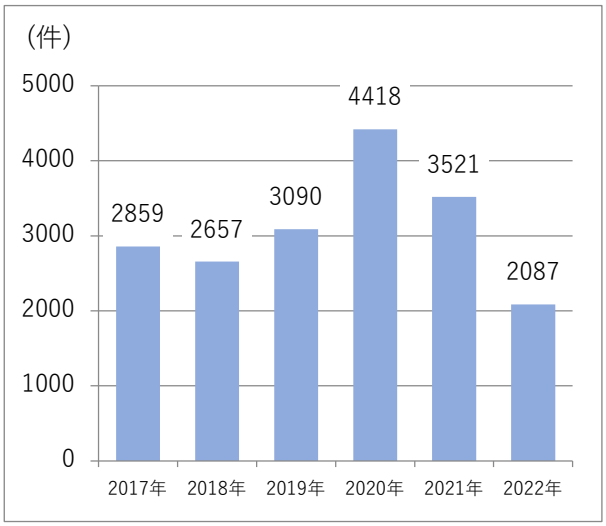

図 1．年間入院栄養指導件数

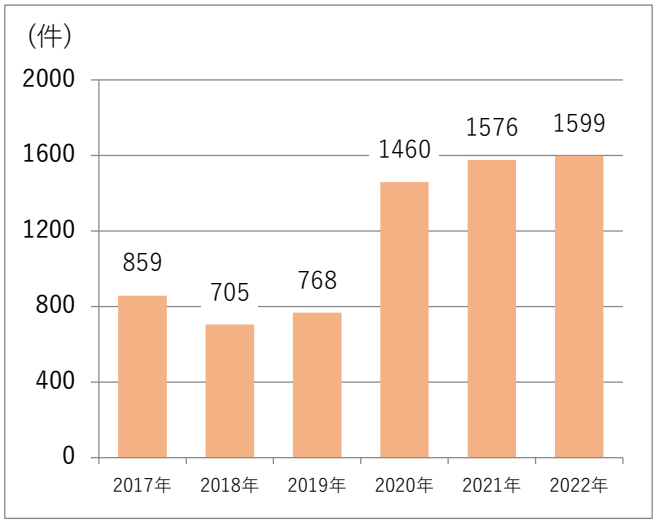

図 2．年間外来栄養指導件数

食事提供数、絶食率の推移（図 3，4）

2022 年の 1 年間で提供した合計食事提供数は前年とほぼ同数でした。一般食・特別非加算食（高血圧食や嚥下食など）と特別加算食の割合は前年同様でした。2017 年以降特別加算食が減少し、一般食・特別非加算食が増加傾向であり、これまで心臓血管外科の術後患者に対して特別加算食（心臓食や腎臓食など）を提供していましたが、2016 年 9 月からハート食（特別非加算食）の提供が開始されたことが影響していると考えられます。

また、絶食率は例年通り 15%以下を維持しており、2022 年の絶食率は 10.1%と低い値を推移しています。当部署では、全病棟に管理栄養士が常駐しており、「無駄な絶食をなくす」ことを一つの目標とし早期からの腸管使用に努めております。

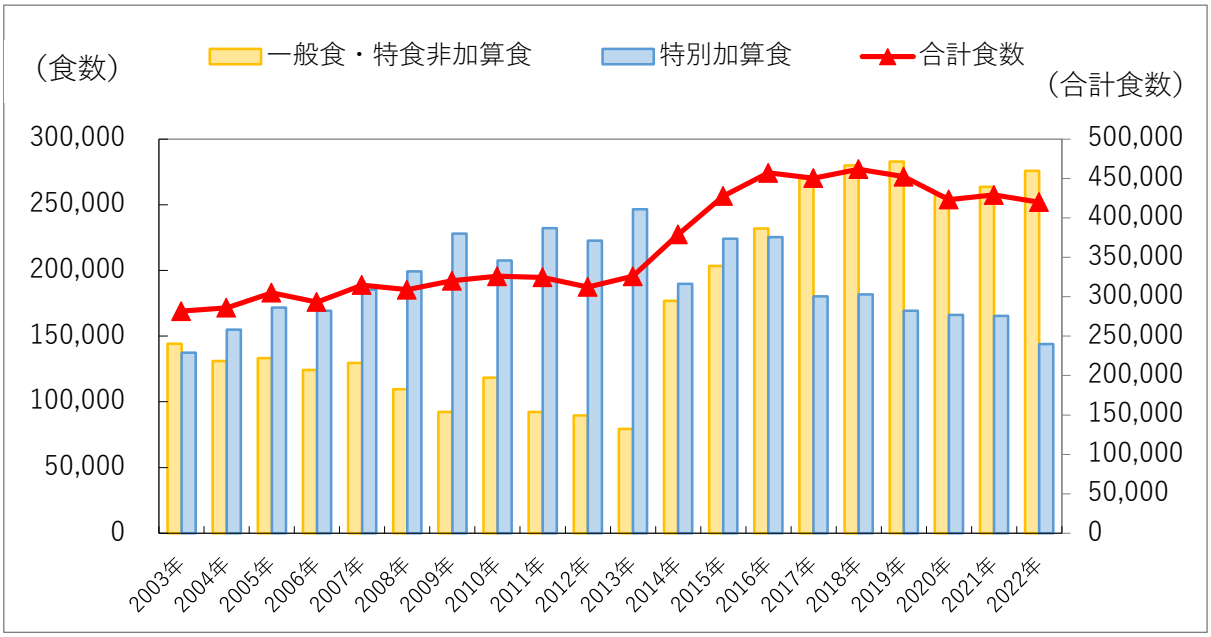

図 3．食事提供数の推移

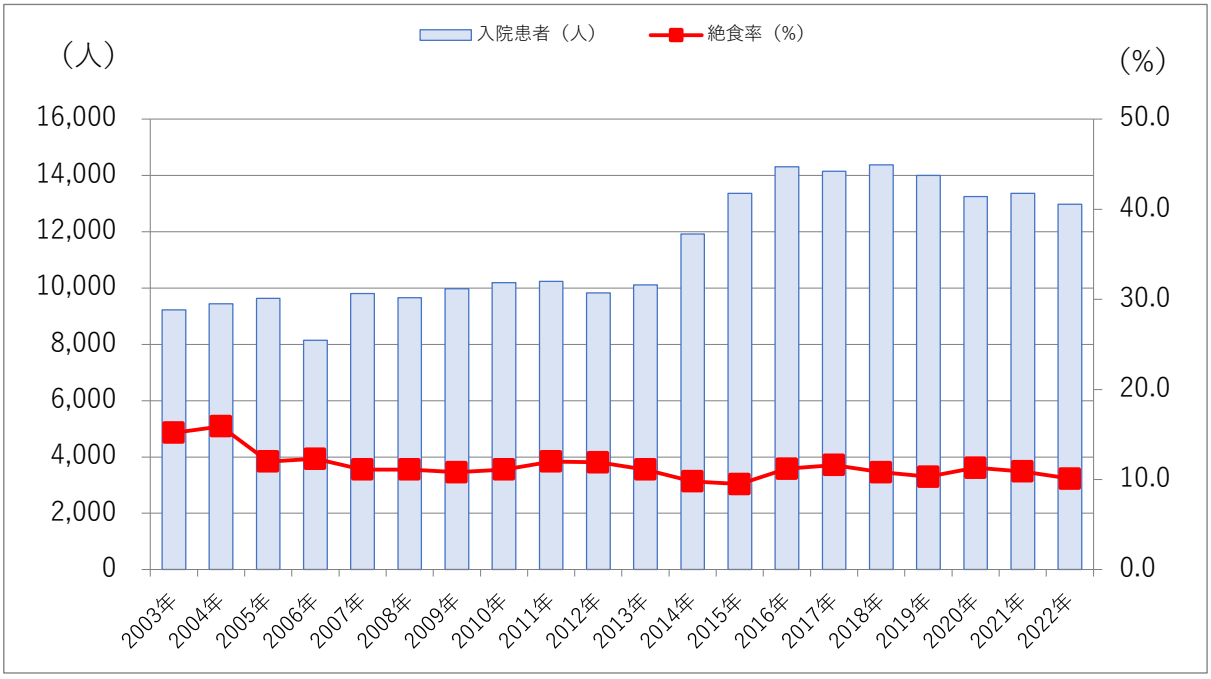

図 4．入院患者数と絶食率の推移

フードサービス（表 1）

2006 年より開始した辰巳芳子さんの「いのちのスープ」プロジェクトのもと年に 4 回のいのちのスープの提供を実施しています。2022 年は新型コロナウイルスの感染拡大を認め第 61 回（2022 年夏開催予定）のスープ提供を中止といたしました。

また、日々の食事に関しては aim サービスとの献立会議を定期的に開催し、毎月の患者アンケートや検食の意見をもとに、献立の改良を重ねています。さらに、言語聴覚士や他職種と協議を行い、安全に摂取できる嚥下食の改良も行いました。その他、行事食や季節に合わせたメニューも提供し、食事を楽しく美味しく安全に食べていただけるよう工夫を行っています（表１）。

表１ 行事食の例（2022 年）

１月 元旦 ［朝食時］ ・おせち		１月 元旦 ［夕食時］ ・ちらし寿司	
１月 いのちのスープ ［夕食時］ ・ボンファム		２月 節分 ［昼食時］ ・海鮮ちらし寿司 と節分豆	
２月 バレンタイン ［昼食時］ ・チキンライスと チョコババロア		３月 ひなまつり ［昼食時］ ・海鮮丼	
５月 こどもの日 ［昼食時］ ・豆ごはん		７月 七夕 ［昼食時］ ・七夕そうめん	
１０月 いのちのスープ ［夕食時］ ・さつまいもの ポタージュ		１２月 クリスマス ［夕食時］ ・フライドチキン	

１２月 大晦日 ［夕食時］ ・年越しそば ・タタキ			